

平成29年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

山形県立米沢興譲館高等学校

目指す生徒像	1 自他の生命を尊重し、調和のとれた人間性豊かな生徒
	2 謙虚に学ぶ姿勢を身につけ、高い志を持ってその実現に向けて努力する生徒
	3 次代のリーダーとして、自立し、世のために尽くそうとする生徒
重点目標	1 自立に向けた生徒指導の展開
	2 学習環境の整備と健康・安全教育の推進
	3 学力の向上
	4 探究型学習の推進
	5 進路指導体制の充実強化
	6 開かれた教育活動の推進
	7 地域の高等教育機関や関係機関・企業と連携した教育の推進

達成度	A 達成・・・(3.0以上)
	B 概ね達成・・・(2.5以上)
	C やや不十分・・・(2.0以上)
	D 不十分

評価	4 達成
	3 概ね達成
	2 やや不十分
	1 不十分

番号	評価項目	自己評価		達成度	次年度に向けた改善策	学校関係者評価 意見・要望・評価等	総括	
		具体的方法と指標・基準	評価					
1	自他の命を大切に、違いを認める態度の育成ができている。	・生徒課主催の様々な活動において、良好な人間関係を構築できるような話し合いの場の設定 ・各分掌と連携した情報共有と機会を捉えた生徒状況把握による指導上の諸問題の早期発見 ・アンケートや面談によるしめの実態把握 ・スクールガード事業やいのちの講話及び各種講演会等を通してのいのちの教育の推進	3.2 A	A	・学校いじめ防止基本方針のまと組織的・計画的な取り組みを推進する。 ・様々な場面での生徒観察を通して生徒の状況把握に努める。 ・生徒のスマホ・携帯電話利用状況や環境について理解を深めネット被害等を防止する。 ・特に自転車乗車について、交通安全のルール・マナーを守るよう声掛けを継続して行うとともに機会を捉えて指導する。 ・各種委員会が主体的に活動できるように一層の声掛けを行う。 ・部活動終了後の切り替えを継続的に指導し、タイムマネジメントの徹底を図る。	・策定した興譲館版D O Cに基づいた教育活動を推進した。 ・授業第一主義を基盤とする学習指導を徹底するとともに、探究型学習を取り入れながら指導方法の研究と改善を継続した。		
	主体性・挑戦する態度育成を目指した部活動、学校行事、生徒自治会活動などが行われている。	・日常の声掛けや立哨指導等、交通安全講話や乗物乱用防止教室の実施による社会のルールを守る態度の育成 ・マナーアップ運動や交通安全運動を展開し、端正な服装や挨拶ができる生徒、ルールを守る態度の育成 ・各種委員会活動の自主的な活動の推進	3.1 A					
2	危機管理体制の整備と施設設備の安全点検が行われている。	・「危機管理マニュアル」の点検と周知徹底 ・見直したメールシステムの効果的な活用 ・毎月の安全点検を実施と不備への迅速な対応	3.0 A	A	・危機管理マニュアルの内容を吟味し、見直しを継続的に進める。 ・様々な災害を想定し適時的な避難訓練を考えるとともに、避難経路の分散を図り、素早い避難ができるようにする。 ・見直した業者の緊急連絡メールシステムを効果的に運用する。 ・列車不通等へ素早く適切に対応する。 ・感染症の情報を迅速正確に収集し、早期に適切な対応ができるよう体制を整備する。 ・保健師の健康観察の在り方について継続検討する。 ・カウンセリング委員会で情報交換と支援策を検討するなどし、効果的に且つ適切に対応する。	・新たな評価法の職員研修を外部講師を招聘し複数回実施し理解を深め知見を共有した。末年度も継続的に研究し実践する。		
	校舎内外の清掃の徹底と美化活動は積極的に行われている。	・清掃箇所を明確にし清掃指導の徹底、用具の管理の徹底と定期的な衛生用具の点検・補充 ・清掃物の処理の徹底と実施 ・定期的な清掃点検の実施 ・美化委員による点検活動の実施	3.0 A					
	健康や安全に関する生徒の自己管理能力の育成と教育相談体制の充実が図られている。	・「避難訓練」を効果的な実施による生徒の防災意識と実践力の向上 ・「保健だより」の発行による心身の健康に関する話題提供 ・効果的な教育相談の実施と適時的なカウンセリング委員会の開催 ・保健委員による健康観察の実施	3.1 A					
3	自己効力・思考力を育む授業が推進されている。	・教育課程や日課の適正に実施するよう運用・管理の実施 ・年間指導計画表による授業点検を行い、生徒が見通しを持った学習ができるよう学習計画表の配布 ・「バーサス・エンス・ハイス」スクール事業のカリキュラムの編成・運用・管理を理数科と連携	3.1 A	A	・各分掌との連携により、教育課程をよりよく運営すると共に、教育課程を検証する。 ・ICTを有効活用した授業展開の充実を図る。 ・指導力向上を図る教員研修を継続実践する。 ・探究科設置に関わる分掌間の連携と役割分担を図る。 ・授業評価を継続し、授業改善に資する工夫をする。 ・評価表についての職員研修をさらに深める。 ・探究型学習を継続研究し、授業実践等職員全体で共有する。 ・現行教育課程と新教育課程が混在する期間の教育課程を点検し、スムーズに移行できるよう運営する。 ・授業第一主義を徹底する。	・探究科設置に向けて、その魅力を直接中学校や地域に向けて発信してほしい。 ・探究型学習では、外部団体や地域とのかわりを持ちながら、体感的な取組みをとおして深い学びを促してほしい。 ・普通科と探究科で位置づけを明確にし、それぞれの特色を活かした取組みをしてほしい。 ・SS H事業は、大変有意義である。SS H事業がより全体的な取組みとなるよう、また、その活動が外部に理解してもらうような発信を継続してほしい。	・SS H指定三期目の初年度としての事業を全校挙げて推進した。また、重点目標のためには県教委と連携して申請した。 ・探究科設置に向けてのキャリア編成や評価法、日課などを段階的に策定した。 ・新たなキャリア教育総合実践プログラムを、探究科設置、SS H事業と関連付けながら策定した。	
	謙虚に学ぶ姿勢と論理的批判力の育成が行われている。	・授業研究期間や公開授業日を設定し、相互研修・指導力向上を図り、教科担当者により生徒の学習状況の理解と情報共有の推進 ・年2回の生徒による授業評価をとおして、自己点検を実施 ・計画的な主権者教育の推進	3.0 A					
	本校の使命を果たすための教育課程の適切な管理と効果的運用がなされている。	・教育課程検討委員会を適時的に開催し、点検精査しながらの運用 ・2年普通科での探究型学習の実施と評価 ・年2回の生徒による授業評価をとおして、授業改善のために授業点検を実施 ・表現活動推進委員会との連携による朝読書の実施	3.1 A					
	教師力の向上を目指した研修会が充実して行われている。	・自己効力向上や評価法についての外部講師による研修会の実施 ・ICTの整備と、有効活用した授業展開の推進	3.3 A					
4	SS H事業の推進と効果的な実施が行われている。	・「スーパーサイエンスハイス」事業を効果的に活用し、体験的な学習活動の充実	3.2 A	A	・3期目のSS H指定における事業を点検・整備するとともに、計画に沿って実施する。 ・SS H事業の推進をとおして、国際的視野が広がられるよう生徒に還元するとともに、校内組織の運営を充実させる。 ・生徒の外部研修等への参加の推奨 ・探究科設置に向けて、基本的な教育方針等を職員全体で確認・共有する。 ・中核教員研修事業を還元するとともに、一層の深化を図る。 ・探究科と普通科及びSS H事業を外部に向けて積極的に発信する。 ・エネコススクール指定に向けた取組みを推進する。	・大学入試改革関連の情報を適時に分析し対応するとともに、得られた情報を生徒・保護者に還元してほしい。 ・AO入試が拡大される中、生徒・保護者へわかりやすく説明することが大切である。 ・学力向上を目指すのと、家庭の理解・連携が必要である。 ・働き方改革の動向を鑑み、教職員の健康管理をしっかりした上で業務に当たってほしい。	・SS H指定3期目の初年度としての事業を全校挙げて推進した。また、重点目標のためには県教委と連携して申請した。 ・新たなキャリア教育総合実践プログラムを、探究科設置、SS H事業と関連付けながら策定した。 ・探究科設置に向けてのキャリア編成や評価法、日課などを段階的に策定した。 ・新たなキャリア教育総合実践プログラムを、探究科設置、SS H事業と関連付けながら策定した。	
	探究科設置に向けた魅力的な教育課程の編成と中学校・中学生・保護者への周知が行われている。	・探究科設置に向けたSS H事業の地域等への積極的普及・広報 ・探究科に関わる地区別学校説明会の実施とおした関係各所への周知	3.3 A					
	国際性と表現力の育成を図る指導が推進されている。	・国際科学技術系オリンピック等への積極的参加 ・台湾海外研修や留学生によるティームティーチングにおける国際性の醸成	3.0 A					
	キャリア教育実践プログラムによる高い志を育む教育と系統的な進路指導が推進されている。	・キャリア教育実践プログラムを基にした諸指導の目的を常に確認しながらの実施と、点検・改善・系統だった指導の確立 ・難関大学進学指導体制の充実と指導力の向上 ・教員向け研修への計画的参加による指導力向上 ・地域の医療機関や企業との連携と生徒のキャリア意識の高揚	3.2 A					
5	個に応じた進学希望を実現するための組織的支援体制が整備されている。	・生徒面談の随時実施による生徒の多様な進路志望への対応 ・理数科・教務課を中心に、他分掌との連携を強化してのSS H事業のより一層の推進 ・表現活動推進委員会を中心に、SS H事業での表現活動の指導を整理したより効果的な指導体制づくりの推進 ・各種コンテストへの積極的な参加の奨励 ・推薦・AO入試の積極的活用と研究	3.2 A	A	・推薦、AO指導を全職員体制で早期から実施する。 各種科学系コンテストの輪転を継続的に検討する。 ・3年間を見通した学部エキスパート制を基盤とするキャリア教育を実践する。 ・大学入試改革関連情報を適時的に発信する。	・高評価のアンケート項目が多い。次のステップにつなげるため、意見を吸い上げるような仕組みづくりを期待する。	・SS H校内生徒発表会を1,2年全員で行い、探究型学習によるプレゼンテーション力、英語でのコミュニケーション能力育成の活動を充実させ一定の成果を挙げた。	
	各種評価及び学校関係者評価委員会が効果的に機能している。	・生徒による年2回の授業・学校生活評価及び保護者による学校評価、教職員による自己評価を実施し、授業改善、教育活動への活用及び結果の公表 ・年2回の学校関係者評価委員会の実施による、助言内容の本校教育活動改善への反映	3.1 A					
6	保護者・地域との連携、社会参加活動は積極的に行われている。	・保護者向け進路講演会の実施による情報提供と啓発活動 ・保護者の本校教育活動への参加意識の高揚と、広報活動やHPによる情報の公開	3.1 A	A	・各種評価の内容を点検・検討する。また、方法を検証するとともに引き継ぎ事項を整備する。 ・各種評価による改善事項をまとめ、次年度に繋げる。 ・各団体との連携を継続する。 ・探究科設置に向けたPR活動を計画・実施する。 ・HPの運営や更新を図る。 ・連絡網通信の発信部数を伸ばし、より一層の情報提供に努める。	・朝の立哨指導を継続することにより、生徒理解を深め登校の安全を確保した。 ・新規契約したメールサービスを有効活用し、学校の情報を発信した。	・スクールカウンセリングの有効的な活用により、生徒理解が深まり生徒の適応支援につながった。	
	学校のホームページを含む広報活動は積極的に行われている。	・各課、学年と連携し、ホームページの迅速な更新	2.7 B					
	説明責任に基づく事務処理が適切に行われている。	・事務部と連携した確かな事務処理の遂行	3.2 A					
7	地域の高等教育機関や関係機関・企業と連携した教育が推進されている。	・高大融合協定に基づく山形大学工学部開講講座の活用 ・Diversity-KOJ0講座による米沢栄養大学との更なる連携 ・米沢市理科教育センターと連携した取組みの推進 ・F S等の機会を活用した企業との積極的連携	3.4 A	A	・高等教育機関・関係教育機関と継続的に連携する。 ・連携する企業の拡大と深まりを検討し実践する。			
	自己評価及び学校関係者評価の改善点、他	1 探究科設置初年度に向けた、学校全体での組織的な取組みの展開 2 教職員の共通理解・認識のもとでの3年間を見通した学習指導・進路指導・生徒指導の展開 3 保護者、地域から信頼され理解されるための情報発信の工夫						